

# 黒星病特別防除

# りんご

ふじ 発芽 3.31 展葉 4.10 開花始 4.29 満開 5.3 落花 5.9 収穫盛 11.21  
平年値 (東根市神明) 北村山農業技術普及課調査

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)	農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数) を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
			収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期	腐らん病(黒星病) → ハダニ類 → カイガラムシ類幼虫 →	水 98ℓ 1. ベフラン液剤25 1,000倍(100cc) 2. ハーベストオイル 50倍(2ℓ) 3. アブロードフロアブル 1,000倍(100cc)	休眠期 芽出し直前直後 30日前	6回以内 2回以内	400ℓ	1. この回は、発芽前までに散布する。又、発芽した西洋なしに薬害の心配があるので飛散させない。	／		
(発芽10日後) 展葉期(頂芽の葉が1～2枚展葉した頃)	黒星病 モニリア病 (褐斑病、炭そ病、斑点落葉病)	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍(66.6g)	開花前まで	2回以内	400ℓ	1. ストライド顆粒水和剤に替えてICホルダー412 30倍を散布してもよい。その場合ハーベストオイル散布後3日以上開隔をあげる。 2. 休眠期防除を行えなかった園地ではアブロードフロアブル1,000倍(30日前まで、2回以内)を混用散布する。	／		
展葉3～4葉 (4月中旬～下旬)	黒星病、褐斑病 炭そ病(輪紋病) 斑点落葉病 モニリア病	1. ジマンダイセン水和剤 600倍(166.6g)	30日前まで	3回以内	400ℓ	1. ジマンダイセン水和剤に替えてICホルダー412 30倍を散布してもよい。	／		
開花直前	黒星病 うどんこ病 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1. カナメフロアブル 4,000倍(25cc) 2. デランフロアブル 2,000倍(50cc) 3. サムコルフロアブル10 5,000倍(20cc)	前日まで 60日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 3回以内	400ℓ		／		
前回散布後 10日以内	黒星病 斑点落葉病 モニリア病 褐斑病、赤星病	1. ミギワ20フロアブル 4,000倍(25cc) 2. ジマンダイセン水和剤 600倍(166.6g) 3. (バイカルティ) <sup>※2</sup> 1,000倍(100g)	前日まで 30日前まで	3回以内 3回以内	400ℓ	1. 黒星病の初発時期なのでこの回以降10日間以上防除間隔をあげない。 2. この回以降6月上旬までは、さび果や生理落花などが発生しやすいので各種乳剤は使用しない。 3. おうとうに隣接していない園では品質向上のためバイカルティを加用する。 4. 葉害防止のため、高温時の散布は避ける。	／		
前回散布後 10日以内	黒星病、褐斑病、斑点落葉病 ハマキムシ類 キンモンホソガ (アブラムシ類)	1. デランフロアブル 2,000倍(50cc) 2. フェニックスフロアブル 4,000倍(25cc) 3. (バイカルティ) <sup>※2</sup> 1,000倍(100g)	60日前まで 前日まで	3回以内 2回以内	400ℓ	1. アブラムシ類の発生園ではウララD F2,000倍(14日前まで、2回以内)を加用する。	／		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする									
前回散布後 10日以内	腐らん病、モニリア病 輪紋病、黒星病 褐斑病、黒点病 斑点落葉病、炭そ病 カメムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ リンゴワタムシ	1. トップジンM水和剤 1,500倍(66.6g) 2. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33.3g) 3. ダントツ水溶剤 2,000倍(50g) 4. (バイカルティ) <sup>※2</sup> 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで 前日まで	散布6回以内 3回以内 3回以内	500ℓ	1. 高温時や薬液が乾きにくい夕方などの散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2. リンゴワタムシが発生している園ではていねいに散布する。 3. カイガラムシ類幼虫(サンホーゼカイガラムシ)の多い園はアブロードフロアブル1,000倍(30日前まで、2回以内)をていねいに散布する。	／		
おとうとの隣接園では、以後おとうとの収穫が終わるまで展着剤とバイカルティを加用しない。									
6月上旬	モニリア病 黒星病 黒点病 斑点落葉病 うどんこ病 カイガラムシ類、アブラムシ類 リンゴワタムシ	1. スコア顆粒水和剤 3,000倍(33.3g) 2. トレノックスフロアブル 500倍(200cc) 3. トランスフォームフロアブル 2,000倍(50cc) 4. (バイカルティ) <sup>※2</sup> 1,000倍(100g)	14日前まで 30日前まで 前日まで	3回以内 5回以内 3回以内	500ℓ	1. 黒点病防除の重要な時期である。	／		
6月中旬	褐斑病、黒星病、斑点落葉病 カメムシ類、アブラムシ類	1. アクサープロアブル 2,000倍(50cc) 2. テルスターフロアブル <sup>※1</sup> 3,000倍(33.3g)	14日前まで 前日まで	3回以内 1回	500ℓ	1. ナリアWDGは西洋なしのレクチエの果実や、ぶどうビオーネの葉に薬害を生じることがあるので注意する。	／		
6月下旬	黒星病、褐斑病 炭そ病、腐らん病 斑点落葉病 輪紋病 シンクイムシ類、アブラムシ類	1. ナリアWDG 2,000倍(50g) 2. バリアード顆粒水和剤 2,000倍(50g) 3. (バイカルティ) <sup>※2</sup> 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. 殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。 2. ダニ剤の効果を持続させるため、次回散布まで10日あける。	／		
7月上旬	斑点落葉病、黒星病 輪紋病、炭そ病 すす点病、すす斑病 炭そ病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 キンモンホソガ	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍(33.3g) 2. スカウトフロアブル <sup>※1</sup> 2,000倍(50cc) 3. ダニオーテフロアブル 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで 前日まで	3回以内 5回以内 1回	500ℓ	1. 殺ダニ剤は3～4日前に草刈りをしてから使用する。 2. 前回の殺ダニ剤散布から1カ月以上開隔を明けない。 3. ハダニ類の発生がみられる園地ではアカリタツチ乳剤2,000倍(前日まで)を混用する。 4. キンモンホソガの発生がみられる園ではデミリン水和剤2,000倍(30日前まで、3回以内)を単用散布する。ただし、早生種では収穫前日数に注意する。	／		
7月中旬～下旬	黒星病、褐斑病 斑点落葉病、輪紋病 シンクイムシ類 アブラムシ類 キンモンホソガ カイガラムシ類 ナミハダニ、リンゴハダニ	1. オキシリン水和剤80 1,200倍(83.3g) 2. オリオン水和剤40 1,000倍(100g) 3. マイトコーネフロアブル 1,000倍(100cc)	14日前まで 前日まで 前日まで	4回以内 2回以内 1回	500ℓ	1. おうとう隣接園対応を行った園では、おとうとう収穫後、速やかにオキシリン水和剤600倍(14日前まで、4回以内)を散布する。	／		
8月上旬	輪紋病、炭そ病 すす点病 すす斑病 黒星病 褐斑病 斑点落葉病 カメムシ類、シンクイムシ類 キンモンホソガ、ハダニ類	1. ダイパワー水和剤 1,000倍(100g) 2. アーデントフロアブル <sup>※1</sup> 2,000倍(50cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. 高温時や薬液が乾きにくい時間帯(極早朝、降雨後の翌朝、夕方など)の散布ではサビが出やすくなるので、薬液が乾きやすい条件で散布する。 2. ハダニ類が発生した場合はコロマイト乳剤1,000倍(前日まで、1回)を単用散布する。ももの登録は収穫7日前までなので、収穫期のもものに飛散させない。	／		
8月上旬～中旬	斑点落葉病 (褐斑病)	1. ユニックス顆粒水和剤47 1,500倍(66.6g)	14日前まで	4回以内	500ℓ	1. 降雨の多い場合、単用散布をする。ただし、収穫前日数に注意する。	／		
8月中旬～下旬	斑点落葉病 黒星病、褐斑病 輪紋病 すす点病 すす斑病 アブラムシ類、シンクイムシ類	1. ベルクートフロアブル 1,000倍(100cc) 2. モスビラン顆粒水溶剤 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. 次回の散布間隔をあげすぎない。 2. ハダニ類が見られる園地では、アカリタツチ乳剤2,000倍(前日まで)を1週間間隔で2～3回、葉に十分付着するよう丁寧に散布する。 3. 炭そ病が見られる園地では、ベルコートフロアブルに替えてオーソサイド水和剤80 800倍(前日まで、6回以内)を散布する。	／		
9月上旬 (中・晩生種のみ)	斑点落葉病 黒星病、炭そ病 すす点病、褐斑病 すす斑病 キンモンホソガ シンクイムシ類 ハマキムシ類	1. オーツサイド水和剤80 800倍(125g) 2. ロディー水和剤 <sup>※1</sup> 1,000倍(100g)	前日まで 前日まで	6回以内 2回以内	500ℓ	1. 例年すす点病のみ見られる園ではオーソサイド水和剤80に替えてツインバリアー水和剤1,000倍(前日まで、3回以内)を使用する。ただし、他樹種へ飛散させない。	／		
9月下旬～10月上旬 (晩生種のみ)	斑点落葉病 炭そ病 褐斑病 シンクイムシ類	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍(66.6g) 2. ヨーバルフロアブル 10,000倍(10cc)	開花前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1. 晩生種のみ散布する。 2. 葉害防止のため高温時(25度以上)の散布をさける。 3. 西洋なし以外への飛散に注意する。	／		
収穫後 (落葉期前まで)	腐らん病 (黒星病)	1. アピオン-E(展着剤) 2,000倍(50cc) 2. ベフラン液剤25 1,000倍(100cc) 又は 石灰硫黄合剤 10倍(10ℓ)	休眠期 休眠期	6回以内	400ℓ	1. 腐らん病(黒星病)防除のため必ず散布する。 2. アピオン-E等の固着性展着剤を加用すると流亡防止効果がある。	／		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。 オーツサイド水和剤、オキシリン水和剤などキャプタン剤の使用基準は合計で6回以内である。 速度を上げて散布量を減らすことは絶対にしない。薬液が十分にかかる様に、剪定や間伐で通風採光を良くする。散布時期は生態に合わせる。中山間地は平地より数日遅れる。  
 ※1 合成ピレスロイド剤は猛毒・魚毒が強いので、菜園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。 ※2 バイカルティは、日持ちの向上が期待できる。